滋賀医大　医療支援班（C 班）　活動報告
宇津　貴、澤井俊宏、田淵陽平、白石知子、古川友紀、澤居みゆき

4 月 20 日　医師２名、看護師２名、薬剤師１名、事務１名の計 6 名で、滋賀医大を 9 時に出発し、福島会津保健事務所に 17 時前に到着。所長・担当官から医療現状および支援体制について説明を受けた後、先行の滋賀医大 B 班から薬剤・資材を引き継いだ。
4 月 21 日　8 時 30 分から事務所にて全体ミーティング。昨日の状況と本日の予定を聞き、福島県の薬剤師１名と合流。計 7 名で、約 25km 車で会津坂下町に移動。午前は川西公民館、松林閣、午後は農業改善センター、会津自然の家の計 4 か所で計 18 名の診療。
4 月 22 日　全体ミーティング後、愛知県薬剤師会の方と約 35km 離れた柳津に向かう。午前は銀山荘、午後にはホテルかわちで計 18 名の診察。銀山荘では原発事故の影響で病院解散となった大野町病院の看護師２名が常駐しており、協力を得て活動した。また、協力してくれた保健師さんの血圧が高く、薬物治療を開始した。
4 月 23 日　全体ミーティング後、愛知県薬剤師会の方と約 35km 離れた喜多方へ向かう。喜多方でラーメン大使哀川翔さんのイベントがあったため、イベント終了を待ち 14 時半まで診療。2 名の小児も含め 17 名の診療を行った。その後、美里町の会津野ユースホステルへ移動。小児１名を含む 7 名の診療を行い、18 時に報告終了。3 日間の活動を終了した。
　我々は、3 日間の活動期間中に避難所 8 カ所を訪問し 60 名の診療を行った。急性疾患は少なく、高血圧や糖尿病などの慢性疾患コントロールの悪化が目立ち、投薬中断例もみられた。宿泊施設への移動が進み（4 月 22 日現在　会津の避難者：公共施設 1021 名、宿泊施設 7776 名）、県職員の把握が難しくなってきたこと（たとえば、大熊町では避難所が宿泊施設 60 箇所以上に分かれている）が問題になっており、今後は宿泊施設管理者の協力が重要になると考えられる。事実、経営者オーナー夫妻が非常に協力的な訪問先では、慢性疾患を持つすべての方が受診した。また、主介護者である配偶者が訪問看護ケアを拒むケースがあった。我々はケア継続ができるわけではないのでそれ以上の介入は行わなかったが、今後は宿泊施設でのケアも考える必要があると感じた。避難所が広い範囲に散らばっているため、移動時間がかかること、避難者に土地勘がなく今後も移動する可能性が高いため近医受診を勧めにくいことも課題と考えられた。

テントでの受付

滋賀県職員との打合せ

診察の様子

診察の様子

地元保健師さんとの打合せ

本部打合せ